

廃バッテリー 6 カ月ぶり反落

市中相場 鉛価格下げ映す

廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の市中相場が 6 カ月ぶりに反落している。鉛価格指標の値下がりを受け、関西地区では前月と比べてキロ 3—5 円値下がりして 90 円前後が中心となっているもよう。今月半ばの寒波到来によって補修バッテリーの取り替え需要が発生し、荷練りが緩んだことも一因とみられる。

寒波到来で発生増加

鉛リサイクル原料の廃バッテリーの市中相場は、昨年 7 月にキロ 70 円前後。輸出先の韓国二次精錬業界で 6 月下旬、ヒ素を含んだ精錬残渣を長年違法投棄していた疑いで一斉摘

発されたことが発覚し、輸出情勢が不透明となったため気配安となった。しかし、その後も輸出が止まることなく継続。ロンドン金属取引所（LME）の鉛相場

が上向き、韓国側は買値を引き上げていった。財務省貿易統計でも 11 月の輸出平均単価はキロ 90・1 円と、4 カ月で約 10 円値上昇。特に九州・中四国地区では集荷競争が激化した。

し、昨年末に 100 円をつける地域もあった。電気鉛の国内建値は昨年 10 月末のトン 26 万 5000 円から、12 月半ばには 33 万 2000 円まで 25% 急騰。しかし、年明けには 28 万 9000 円まで急反落した。

廃バッテリーの市中相場は指標よりも、韓国二次精錬メーカー側の引き合いにもとづく需給によって変動しやすいが、今回は指標の下げを映したものではないか（市場関係者）とみられている。今月には日本列島に「最強寒波」が到来し、広範囲で数年ぶりの積雪が観測された。鉛バッテリーは寒暖の気温差が故障の原因となりやすいため、廃バッテ

リー発生が増加し、下げ要因となったようだ。しかし、19 日には銅建値が 31 万 8000 円に続伸しており、市中相場の下げは限定的とみられる。